

## Vogue. — Éd. française (ヴォーグ)

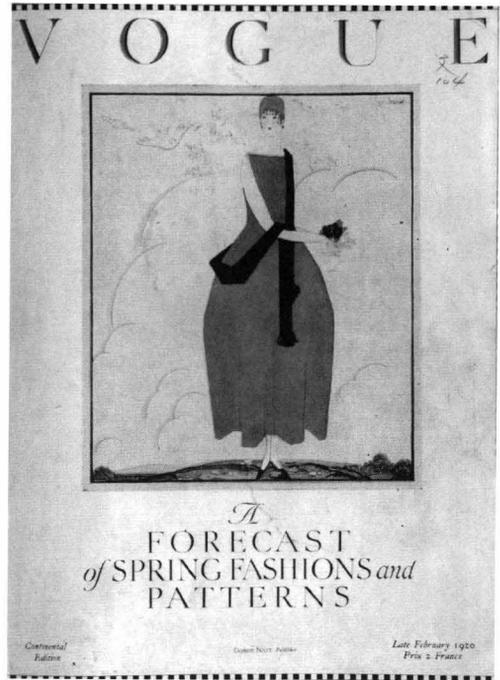
Paris : Éditions Condé Nast, 1920—

フランス版「Vogue」は1920年6月15日に創刊された。

第一次世界大戦前のヨーロッパ——イギリスやフランス——では、アメリカ発の「Vogue」が在ヨーロッパのアメリカ女性などを主要読者層にある程度売れていたらしい。開戦によってフランスやウィーンなどヨーロッパのファッション誌が十分出回らなくなると、その影響で「Vogue」のヨーロッパにおける売上げは大きく伸びる。こうしたヨーロッパにおける「Vogue」の繁栄は1916年まで続いた。しかしドイツの潜水艦による輸送船攻撃が激化すると、生活必需物資以外の輸送は厳しく制約されるようになる。その結果、イギリス版「Vogue」が1916年に、フランス版が1920年に創刊されることになった。イギリス版およびフランス版「Vogue」は、社内ではそれぞれ「British Vogue」と「French Vogue」を縮めた「Brogue」と「Frog」のニックネームで呼ばれ、何度かの危機

を乗り越えながら本体のアメリカ版とともに「Vogue」の3本柱として今日まで続いている。

イギリス版もフランス版「Vogue」も、雑誌の構成は、ファッション情報を含め編集記事の大半は本体アメリカ版と共有し、上流女性のポートレートや舞台の情報などと広告をローカル編集とするものだった。創刊号は完璧な出来というには程遠いものだったが、パリでの評価は高かったと当時のアメリカ版編集長エドナ・ワールマン・チェイス (Edna Woolman Chase) は自賛している。フランスの責任者には、1918年からヨーロッパ・ディレクターとなっていたフィリップ・オルティス (Philippe Ortiz) が就任し、芸術的な高級ファッション誌として高名な「Gazette du bon ton」の発行人であったヴォージェル (Vogel) 夫妻が編集に加わった (1922—1925 アートディレクター)。パリのアート界に影響力をもち新進アーティストたちとの親交も深いヴォージェル夫妻の参加は、フランスで活躍する気鋭のイラストレーターたちが次々と表紙デザイナーとして活躍することになったことをはじめ、フランス版にとどまらない「Vogue」全体のビジュアル表現など芸術的側面の充実にも多大な貢献をする。その後、編集および経営のてこ入れのためチェイスが海外版も統括する編集の総責任者となった。1930年の本誌上でも、当時の編集長ミシェル・ド・ブリュンホフ (Michel de Brunhoff) やアメリカ版編集長カーメル・スノウ (Carmel Snow)、イギリス版のアリソン・セトル



創刊号 (1920年7月) 表紙



2005年6/7月号表紙

リバーマン (Alexander Liberman) が統括していたが、フランス版は発行部数も4万と少ない高級誌であったため、営業実績などに左右されない編集の自由がアメリカ版に比べてあったらしい。シャルル＝ルーは、単なるオートクチュールの忠実なメディアにとどまることなく、アーティストや新進写真家を起用して、高級ファッション誌の規範すれすれの「アンチ・シック」路線を次々と開拓してラディカルな誌面を作り、挑発的なファッション写真の旋風を巻き起こしたという (今橋映子著『パリ写真の世紀』白水社 2003)。フランス版「Vogue」の独自性が確立されたためか、60年代後半にはアメリカ本部のクレジットも小さく最後尾に記載されるようになった。

1970年代のロベール・カイユ (Robert Caillé) や80年代のジャン・ポニャトウスキー (Jean Poniatowski)、90年代のジョーン・ジュリエ・バック (Joan Juliet Buck) と各時代を担ったディレクターや編集長たちは、それぞれシャルル＝ルー時代に確立されたフランス版「Vogue」の独自性とステータスを守りつつ、新しさを保とうと努力を続けてきた。そして現在の編集長カリーヌ・ポワトフェルト (Carine Poitfeld) もクリエイティブディレクターに「Harper's bazaar」のアートディレクションやイッセイ・ミヤケ香水のパッケージ・デザインなどで著名な大御所アーティストのファビアン・バロン (Fabien Baron) を得て、大きく誌面を刷新した。「Vogue」は、特におしゃれなフランス版「Vogue」は常に美しい。しかしもはや「Vogue」は、おしゃれなフランス版「Vogue」であっても、数あるファッション誌の一つにすぎない。そしてファッション誌は数あるファッション・メディアの一つなのだ。

本館には、ごく一部の欠本を除き、創刊年度からのフランス版「Vogue」が所蔵されている。

(古賀令子)

(Alison Settle) を統括する3「Vogue」の総編集長としてチェイスの名がトップに記されている。ド・ブリュンホフはヴォージェル夫人の弟で、ファッションブルでアーティスティックな高級ファッション誌確立に手腕を発揮する一方、ドイツによる占領期には占領体制に抵抗して休刊の道を選び気骨を示した。パリ解放後に復刊された1945—46年冬号巻頭の「読者へ」にある「Vogue解放」という文言に、苦境を耐えて再生した喜びが表れている。

1950年代後半にド・ブリュンホフは退き、エドモンド・シャルル＝ルー (Edmonde Charles-Roux) が後任となった。シャルル＝ルーの時代は、パリ・オートクチュールと「Vogue」を含めたハイファッション誌が最後の輝きを示した時代だったといえるだろう。「Vogue」全体の編集とアートディレクションは本部アメリカのアレクサンダー・